

## 牛肉の需給予測について

### 1 出荷頭数・生産量

出荷頭数の予測は、品種毎に出荷までの平均的な飼養期間を遡った出生頭数を牛個体識別情報から抽出し、算出している。また、生産量の予測は、上記の出荷予測頭数に、平均枝肉重量等を乗じて算出している。

この結果、

- 生産量は、交雑種の出荷頭数が増加するものの、和牛及び乳用種で出荷頭数の減少が見込まれることから、9月はわずかに、10月はやや、いずれも前年同月を下回ると予測する。
- 3カ月平均（8～10月）では、出荷頭数、生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測する。

(千頭、千トン)

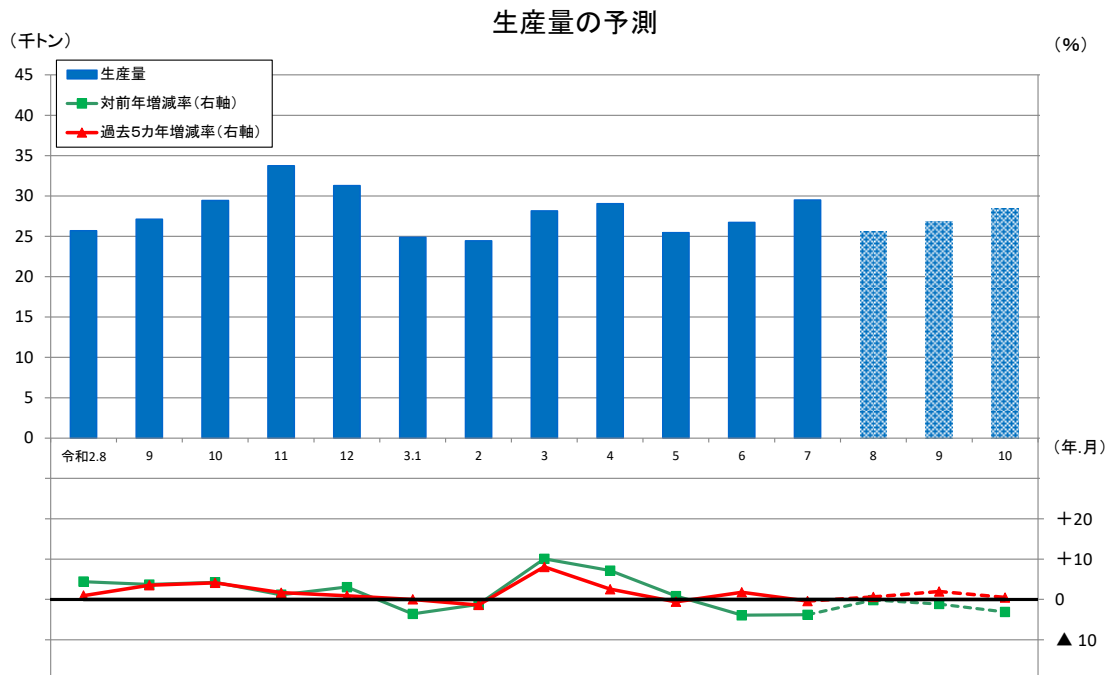
	出荷頭数		生産量
令和3年8月（見込み）	82.2 (100.9%)	[ 95.5%]	25.7 ( 99.9%)
9月（予測）	86.2 ( 99.3%)	[ 97.6%]	26.8 ( 98.9%)
10月（予測）	91.6 ( 97.3%)	[100.5%]	28.5 ( 96.9%)
8～10月平均	86.6 ( 99.1%)	[ 97.9%]	27.0 ( 98.5%)

注：（ ）は前年同期比、以下全ての表において同じ。[ ]は1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比。

### (参考) 品種別の出荷頭数

(千頭)

	和牛	交雑種	乳用種
令和3年8月（見込み）	36.0 (100.8%)	18.0 (100.8%)	26.7 (100.4%)
9月（予測）	37.8 ( 98.4%)	19.3 (105.8%)	27.4 ( 96.0%)
10月（予測）	40.4 ( 93.6%)	20.8 (105.7%)	28.7 ( 96.9%)



注：網掛け、点線部分は予測値

## 2 輸入量

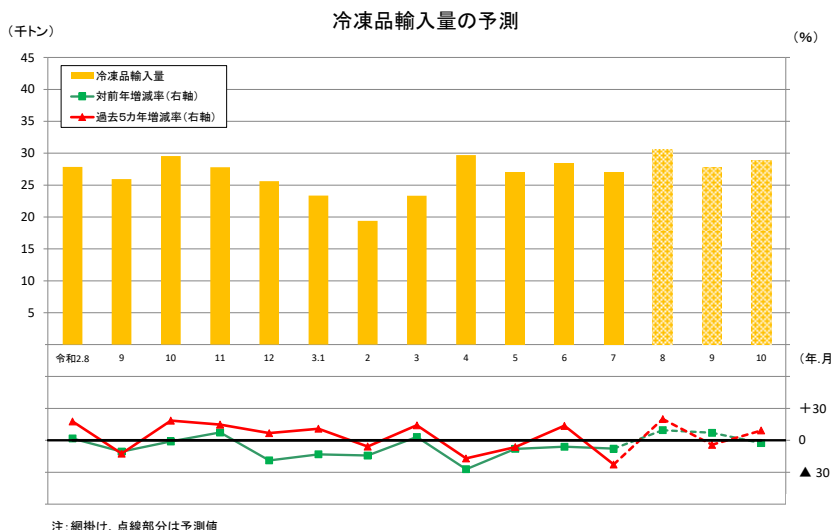
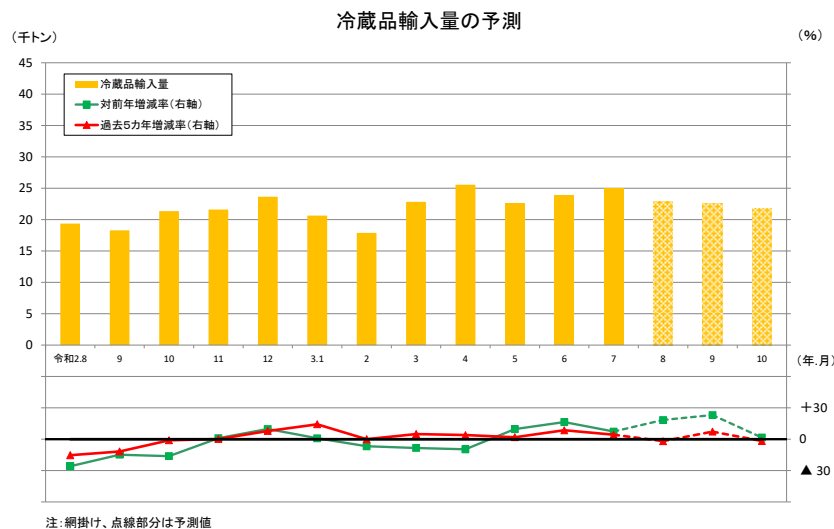
輸入量の予測は、国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会における輸入数量の検討結果を予測値としている。

この結果、

- 冷蔵品輸入量は、9月は、前年同月の輸入量が北米現地工場の作業効率の低下及び豪州の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰等により少なかったことから、前年同月を大幅に上回ると予測する。10月も9月と同様に、前年同月の輸入量が北米現地工場の作業効率の低下により少なかったことから、前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。
- 冷凍品輸入量は、9月は、前年同月の輸入量が豪州における現地価格の高騰等で少なかったことに加え、米国産及び豪州産の輸入量の減少分を他国産の冷凍品で補う動きにより、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。一方、10月は、米国における現地価格の高騰等により、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をやや上回ると予測する。

(千トン)

	冷蔵品	冷凍品	合計
令和3年8月(見込み)	22.9 (118.4%)	30.5 (109.5%)	53.4 (113.1%)
9月(予測)	22.5 (123.0%)	27.8 (107.1%)	50.3 (113.7%)
10月(予測)	21.7 (101.6%)	28.8 (97.4%)	50.5 (99.1%)
8~10月平均	22.4 (113.8%)	29.0 (104.5%)	51.4 (107.0%)



### 3 出回り量、期末在庫

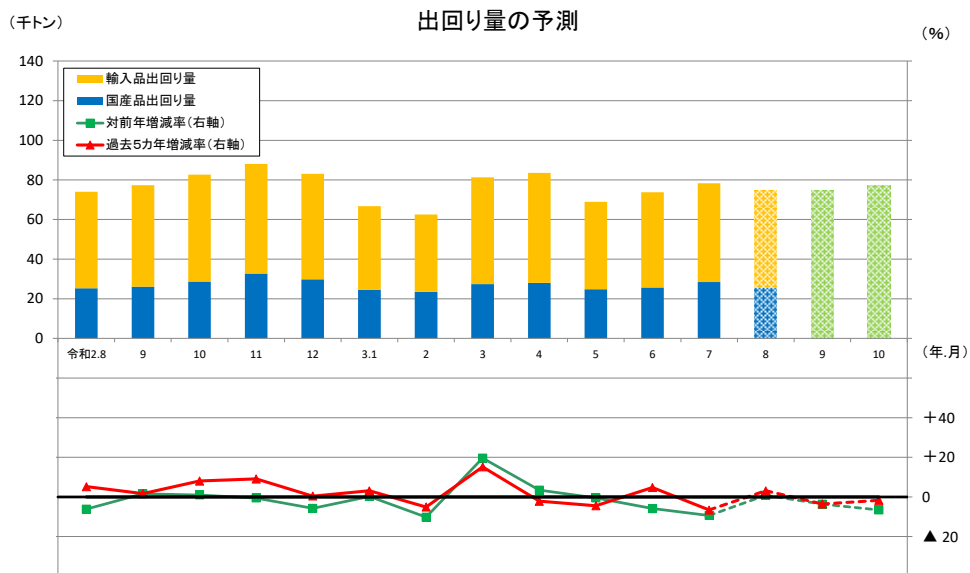
出回り量及び期末在庫の予測は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫及び前述の生産量、輸入量をもとに、計量経済学に基づく手法により算出している。

この結果、

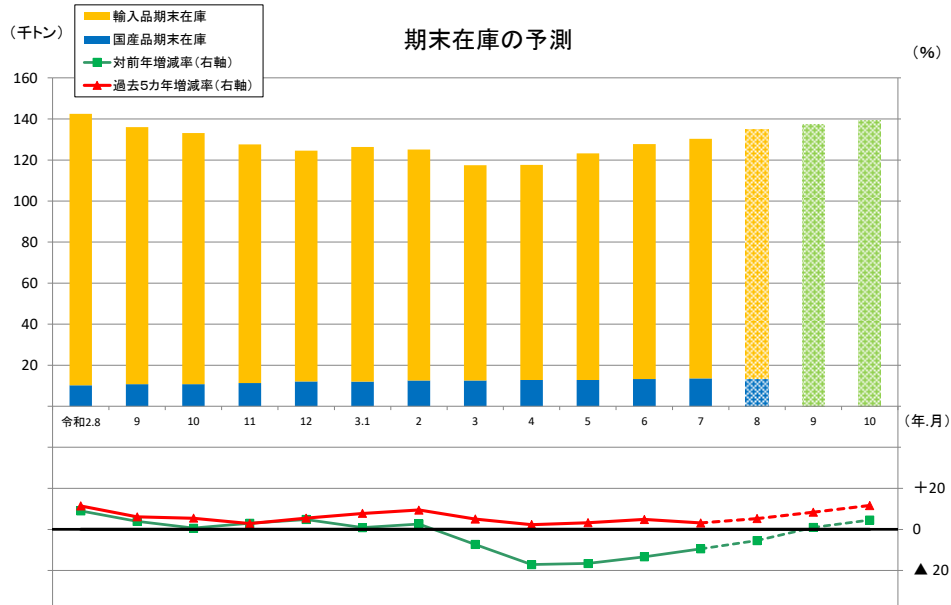
- 出回り量は、9月はやや、10月はかなりの程度、いずれも前年同月を下回ると予測する。
- 期末在庫は、9月はわずかに、10月はやや、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、過去5カ年平均との比較では、9月はかなりの程度、10月はかなり大きく、いずれも前年同期を上回る（9月：8.4%増、10月：11.6%増）と予測する。

(千トン)

	出回り量			期末在庫		
		うち輸入品	うち国産品		うち輸入品	うち国産品
令和3年8月 (見込み)	74.7 (100.9%)	49.1 (100.9%)	25.6 (100.9%)	134.8 (94.6%)	121.1 (91.5%)	13.7 (134.0%)
9月 (予測)	74.5(96.3%)			137.3(101.0%)		
10月 (予測)	77.2(93.4%)			139.1(104.5%)		



注：網掛け、点線部分は予測値



注：網掛け、点線部分は予測値

## <予測手法>

- 出荷頭数は、黒毛和種・乳用種雄牛・交雑種については、家畜改良センターの牛個体識別情報から、「月齢別・牛の種類・性別のと畜頭数」のデータを用いて、牛の種類の出荷月齢パターンを把握し、「牛の出生年月」をもとに予測。上記以外については、過去の月別出荷頭数の実績等をもとに予測。1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比は、と畜場稼働日数を加味して算出。なお、必要に応じ、気候条件や家畜疾病の発生等を考慮し、補正を行う。
- 生産量は、牛の出荷予測頭数に過去の月別枝肉重量の実績をもとに算出した平均枝肉重量を乗じて部分肉換算率を70%として算出。
- 輸入量は、機構の実施している国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会において、各社の輸入数量見込みをもとに検討のうえ算出。
- 出回り量は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫量を当該月の生産量及び輸入量から控除して算出した出回り量をもとにARIMAモデル（計量経済学に基づく手法）を用いて予測。
- 期末在庫は、直近月については、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出し、以降は、上記手法で算出した出回り量を当該月の生産量及び輸入量から控除して算出。なお、食肉等保管状況調査の調査対象倉庫は、毎年度見直している。

### お問合せ先

独立行政法人農畜産業振興機構  
畜産振興部 畜産流通課  
新田、高城

TEL 03-3583-4874

FAX 03-3583-8714